

学校名	西堀小学校
実施日	令和3年1月21日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	効率的に職務を遂行し、時間外労働時間を全職員45時間以内にする。	B	中間「2. 89」→本「3. 06」 コロナ禍の影響もあり、感染防止対策の一環として早めの退勤を推進した結果、10月11月以外は一人あたりの月平均残業時間が45時間以下であった。しかし、持ち帰りをしている教員が多数いるので、根本的な仕事内容、量の改善が必要である。来年度に向け、日課や年計の見直し、行事の精選、その他これまで当たり前と思ってやってきたことの削減などを行い、抜本的な「働き方改革」を推進していく。	B	・効率的な職務遂行への教職員の努力が見受けられる。教育現場は効率だけでは図れない面もあり、教員同士の情報交換も大事にしてほしい。 ・コロナ禍で多忙であるのに、工夫して前年よりポイントが上がっている点において、大変な努力を評価する。 ・業務内容を吟味してスクラップアンドビルドで改革していく必要がある。 ・検温アプリや連絡帳アプリなど情報共有や効率化を図ることを検討したほうがよいのではないか。
2	分かる授業を推進して、学期末に実施する振り返りテストの正答率を1年は95%以上2年～6年は80%以上とする。	B	中間「3. 06」→本「3. 12」 算数では、少人数担当教諭が指導内容をノートに整理して事前に他の教員に範を示した結果、授業に大きなばらつきも出ず、算数が分かりやすいと答える児童が大幅に増えた。単元テストでは、全体としては伸びが見られたが、授業態度や宿題提出に課題の見られる児童に関しては、学習内容の定着を図ることができなかった。学力を向上させるためには、児童の興味関心を高める授業実践を行う必要があり、授業を見合う機会を計画的に設けて、互いに指導技術を高めていく。	B	・分かる授業の推進に向けて努力されている。具体的目標値をいれたのがよい。目標値に達しない要因を分析し、今後の学力向上の方策を考えてほしい。 ・各学級で教科ごとの具体目標を立て、実践してほしい。 ・理解し定着させるには家庭との連携が重要である。補習で理解を補い、家庭学習で繰り返し定着させる必要がある。 ・個別の課題を見つけてスモールステップで解決を図っていく。
3	不登校及び欠席の多い児童が昨年度よりも登校できる日数が増えるよう支援する。	B	中間「3. 26」→本「3. 28」 職集で欠席報告を行うことで、全教職員が不登校気味の児童の欠席状況を把握することができた。昨年度に比べ、1名の児童が継続して登校できるようになった。また、学校には来れなくても市のふれあいルームなどに繋ぎ、そちらに向かうことができるようになった児童もいる。来年度は不登校対策委員会を設け、組織としてさらに体制を整え一人一人に対応していく。	B	・登校するための支援は大変であるが、家庭環境もあると思うのでそちらへの支援もお願いしたい。 ・子供の良いところを見て自信につながるような対応をするとともに、教員間での情報共有を継続してほしい。 ・家庭、学校、市等との連携を図りながら不登校、欠席者数を減らしてほしい。 ・保健室登校、短時間登校、別室登校等個の実情にあわせて対応している。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	中間「3. 21」→本「3. 06」 ・若い教員や、教職経験の少ない教員が多いが、学年主任や校務分掌主任を中心に、予定・計画を確認しながら体制を整えているところである。主任一人が部を担うのではなく、役割を分担して部（組織）として機能させていくことが今後必要である。	B	・適材適所の校務分掌になっているかを管理職は見届け、次年度につなげてほしい。 ・組織を意識した教職員の行動と、チームワークを今後も大切にして取り組んでほしい。 ・適切に機能させるために努力されていると感じるが、1年に4名の担任交代は残念だった。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	中間「3. 21」→本「3. 11」 ・「不登校の解消」「確かな学力の定着」などの経営方針の具現化に向けて、各種学校評価の結果を活かした学校経営を行っている。	B	・学校評価の実施等を通して具体的な状況をつかみ、良い学校経営をしているように思われる。 ・学校評価により明確になった学校の成果と課題を全職員が理解し、次年度の方策を考えてほしい。

6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	中間「3. 00」→本「2. 89」 ・各マニュアルの見直しを行い、迅速に対応できる体制を整えている。来校者には来校記録を正確に記入していただくとともに、来年度からは保護者用の名札をつけて来校していただき、外部からの来校者と見分けがつくようにする。 ・コロナ禍で大きな避難訓練はできないが、不審者侵入を想定した教職員向けの避難訓練を実施する。万が一に備え、共通理解・共通行動について確認する。	B	・敷地内が公道のため、防犯面に不安が残るが、学校は様々な対応を講じていると感じる。保護者用の記名式パトロール札の配布などPTAとしても協力していきたい。 ・6年生の教室を1階にしたのはよい。今後も計画的に避難訓練を実施し、児童が適切に対応する能力を育ててほしい。 ・西門が開いた状況が見られるが、児童の安全を考え、原則閉めるべきである。地域の方にも理解していただき、通用門を通り、自転車、バイクは降りて通ってもらうようお願いしていく方がよい。
---	---	---	--	---	---

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	中間「3. 21」→本「3. 17」 ・校内研修委員会で、話し合いについて定めた学習ルールに基づいた授業を展開している。年度当初は学級によって取り組み方に差があったが、徐々に共通ルールとして定着している。担任の裁量で学習ルールが変わらないように常に共通理解を図っている。	B	・学校としての学習ルールを低・中・高で再確認の上掲示し、教員は毎時間意識してルールが身につくよう指導を続ける。 ・教員の異動により学校としての学習ルールが徹底しにくい、共通理解のもと、6年間でルールを積み重ね指導すべき。 ・クラスによって宿題の量が違う学年があるので、学年で平等になるよう配慮する必要がある。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	中間「3. 11」→本「3. 00」 ・学校全体で対話的・主体的で深い学びのある授業を構築するために、互いの授業を見合う機会を設けたり、主任会で得た情報を共有したりしている。担任と児童とのやりとりだけで進む授業ではなく、児童同士の意見の交流ができるよう工夫しているところである。	B	・子供同士の主体的で対話的な授業を積極的に取り込んでほしい。 ・コロナ禍で制約される中、先生方は言語活動を重視された授業をされていると感じる。 ・「話を聞き発表する」が児童のアンケートでできると答えた割合が高学年で下がっている。学習の基本でもあるので徹底した指導を継続してほしい。 ・学力テストで県平均に近づくためには日常のトレーニングが必要であり、家庭と連携し家庭学習を取り入れた方がよい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	中間「3. 28」→本「3. 17」 ・各種要領に基づいて作成した本校の年間指導計画に沿って、児童の発達段階や学力等に即した学習指導を行っている。日々の授業を振り返り、個の理解度に沿うよう、授業はもちろんであるが補習や朝学習なども活用して改善を図っている。	B	・校内研修により具体的な授業の進め方を研究し、児童の学力向上につなげてほしい。 ・今年度はコロナ禍で授業内容に不安を感じている保護者も多いと思うので、少し補足した情報があると安心されるのではないかと感じる。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	中間「3. 16」→本「3. 11」 ・英会話講師と協力して、児童が意欲的に学べるよう工夫して授業を行っている。 ・中学校との連携がスムーズに行えるよう外国語主任が中心となって、主任会での情報をもとに日頃の授業改善に生かしている。	B	・校内研修を充実させ、授業の進め方を全教員が自信を持って指導していけるよう努力してほしい。 ・低・中・高学年ごとのモデル授業を参観し、教員が自信を持って授業実践できるよう工夫する。 ・本格的に英語授業が始まり、先生方にも負担が多いと感じる。教科担任制の導入など今後の対策が必要だと感じる。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	B	中間「3. 11」→本「2. 83」 ・学校として、あいさつや場に応じた言葉づかいについて指導しているが、学級によって実態が異なっている。今後も継続して指導が必要である。 ・「です・ます」はできる児童とそうでない児童の差が大きい。その場その場で正しい言い方を教え、言い直しをさせるなどねばり強く指導を続ける必要がある。	B	・全職員が共通理解のもと、児童への対応、指導を続けてほしい。教員によって対応が異なると成果が上がらなくなる。 ・挨拶はよくできていると思うが、言葉遣いは家庭との連携が必要となる。 ・児童は進んで友達に挨拶をしたり来校者にも挨拶をしている。「です、ます」も教員や大人が手本を示していく必要がある。 ・地域においても気持ちの良い挨拶ができていく児童もいるが、高学年になると挨拶がしにくくなる傾向が見られる。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	中間「3. 32」→本「3. 28」 ・課題となるいじめは1件であったが、生徒指導部を中心とした学校の組織体制を生かして迅速に対応し、早期解決に努めている。 ・道徳・特別活動等の普段の授業などあらゆる機会を捉えて、未然防止に努めている。	B	・子供がお互いの存在を認め合える指導を学校、家庭で継続してほしい。 ・陰湿ないじめ等もなく、安心して通わせられる。 ・見えないところで行われたり、いじめと思わずに行われたりすることもあり、発見が難しいと思われる。皆がいきいきと楽しく生活できる場であってほしい。 ・教職員の自己評価は低下しているが、保護者は学校の対応が誠実に取り組んでいると評価しており、今後も誠実、迅速に対応していく必要がある。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	中間「3. 22」→本「3. 22」 ・言葉づかいに気をつける教職員が増えた。 ・夕焼けチャイムを守れない児童が多かったが、教員がその時刻に複数で声がけをするようになってから、学校でチャイム後に遊ぶ児童はいなくなった。無言清掃や、廊下歩行など、教師が手本になり、足並みをそろえて共通指導を行っていくことが重要である。	B	・教職員自ら意識を持って規範意識を高めるための道徳や学級指導を継続してほしい。 ・無言清掃が定着しており、今後も継続を期待する。 ・教師の言葉遣いが気になることがある。子供にしてほしくない、言ってほしくない言葉は言わないようにしてほしい。教師の姿が子供の鏡となる。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	中間「2. 95」→本「3. 00」 ・コロナ禍で全校児童が一斉に集って体育朝会などを行う機会はあまりとれなかった。しかし、ブロックごとに持久走練習を行ったり、3学年ごとに分けてサーキットを行うなど工夫しながら児童の体力向上に努めた。縄跳びなどの個人技にも挑戦する児童が多く見られた。	B	・夏の酷暑に加えコロナ禍で子供たちが体を動かすことができる時間が減る中、学校は子供たちの体力向上に努めていると感じる。 ・児童の体力アップに向け工夫されているが、体力テストの課題の結果を受けて方策を考えてほしい。 ・休み時間など積極的に声をかけ、一緒に体を動かすよう促してくれている。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	中間「3. 05」→本「3. 33」 ・栄養士が中心となり、各学年で「食」に関する授業実践、給食委員会での取組、1階廊下の給食掲示板の充実、冬休みの宿題として食事作りへの取組など健康教育を推進している。 ・給食での献立が様々に工夫されており、給食に関心をもち、楽しみにしている児童が大変多い。 ・1月に実施された給食週間では、学年ごとに食事作りや調理員さんへの感謝の手紙を書くなどの取組をしている。	A	・栄養士や給食主任により計画的な食育が取り組まれている。 ・新座市の学校給食は大変おいしいことで有名だが、西堀小は歴史があり、児童の健康に寄与している。 ・世界や日本各地、その時期に合ったメニューを取り入れており、子供が食に対して興味を持つように工夫されている。 ・ランチタイムクイズによる「食」への興味を持たせる取組や、栄養士、調理員の方々への感謝の気持ちを伝える時間はとても大切で、今後も継続してほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	中間「3. 47」→本「3. 39」 ・今年度は授業公開などもなく、保護者が児童や校内の様子を把握する機会がほとんどなかった。学校に対するアンケートは行ったが、記入が少なかったため、来年度は保護者が教育活動等の様子を把握する機会を増やし、意見をもてるように改善していく。	B	・地域や様々な係の意見などが吸い上げられていることを強く感じる。 ・学校と地域とが問題点の共有ができており、児童の安全に繋がられている。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	中間「3. 53」→本「3. 44」 ・ホームページを毎週更新し、校内の様子を伝えられるようにした。学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・給食だより・スクールメールなども活用しながら教育活動の様子を随時、情報提供していく。	A	・ホームページは定期的に更新され写真を多く取り入れることにより学校の様子がよりわかりやすくなっていると感じる。 ・保護者以外の住民が、学校の日々の様子を把握でき、学校地域の一体化ができていく。

18	<p>学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。</p>	<p>中間「3. 53」→本「3. 67」</p> <p>・学校応援団の活動がかなり制限される中ではあったが、何かできることはないかと常にお声がけいただき、活動をお願いすることもあった。消毒や清掃など、例年にない活動においても協力していただき、これまでに築かれてきた学校と学校応援団との結び付きの深さを感じている。今後も連携を強めていきたい。</p> <p><b>A</b></p>	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校応援団の方々はコロナ禍の中でできる範囲で子供たちのために協力してくれている。</li> <li>・学校は応援団、地域住民のことも考え連携し、校内の</li> <li>・地域や保護者の協力がすばらしい学校である。そのためにも日々の教育活動をととして信頼される学校となつてほしい。</li> <li>・保育園や地域町内会と連携を深め、美化活動をはじめ、いろいろと計画的に実施されている。</li> </ul>
----	---	---	--